

路面標示工の作業手順

	内 容	留 意 事 項	危険性・有害性の洗い出し	重篤度	可能性の 割合	リスク 評価	優先度	リスク低減措置
準備工(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 作業打合わせ(KY活動) 作業位置の確認 作業人員の確認 使用機械・材料、工具の点検 保護具の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 安全品質作業指示書による 作業分担、配置の確認 現場故障が無いように始業・終業点検の励行 安全靴・手袋等 	<ul style="list-style-type: none"> 有機溶剤中毒になる 					
				3	2	5	III	・換気のいい場所で確認を行う
準備工(材料)	<ul style="list-style-type: none"> 路面上の塗料接着阻害物(ゴミ、砂、泥、油、水分、付着物など)を除去する。(特に水分は十分乾燥させる) 溶融釜に点火し、攪拌用の羽が動く程度まで余熱を加える 粉体塗料を少量ずつ投入し、液状になり適温(180~200℃)に達したら火力を落とし保温する。 	<ul style="list-style-type: none"> 路面が濡れている場合はガスバーナーで乾燥させる 掃き掃除は通行帯とは反対方向へ行う 必ず保護手袋を着用する 荷台での作業の為、昇降時には十分注意 	<ul style="list-style-type: none"> ガスバーナー使用時に火災が発生する 粉体材料を落として散乱させる 	4	1	5	III	・可燃物を除去してから作業開始する
				1	2	3	II	・手元を確認して作業する
作図	<ul style="list-style-type: none"> 基準となる構造物等から作図基準を設置する 作図基準をもとに、必要な補助線を設置する 							
プライマー塗布	<ul style="list-style-type: none"> プライマーを散布機またはローラーにて塗布 表示の起終点は、必要に応じてクラフトテープにてマスキングを施す 	<ul style="list-style-type: none"> 塗布幅は施工幅よりやや広めとし、ムラのないよう均一に塗布する 	<ul style="list-style-type: none"> プライマーが皮膚に付着し、障害を起こす 	1	4	5	III	・保護手袋の着用
塗装	<ul style="list-style-type: none"> 溶融釜から樋を用いて施工機へ材料を移す 塗装開始前に材料温度が均一になるようよく攪拌する 端部は必要に応じてカット用の鉄板を敷く 塗布したプライマーが触っても付着しない程度に乾燥していることを確認し、施工機で接地塗装を行う 塗装完了部は速やかにクラフトテープやカット用の敷板を除去する 指触で凹まない程度に硬化するまでは立入禁止措置を取る ダレはタガネ等で研り取る。巣穴や擦れはバーナーとヘラにて修正する 	<ul style="list-style-type: none"> 塗料・機械が高温のため手袋の着用 風が強い日は特に飛散に注意する 一定の速度で塗布を行う 風が強い日は特に飛散に注意する 保安員の配置・誘導 バーナー使用のため周囲確認 	<ul style="list-style-type: none"> 樋から材料を溢れさせる 鉄板の端で手を切る タガネ使用時、誤って手を叩く バーナー使用時、火傷火災がおこる 	1	1	2	I	・路面上に養生鉄板等を敷く
				1	2	3	II	・保護手袋の着用
				1	2	3	II	保護手袋の着用、手元をよく確認する
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 余剰ビーズや路面に付着した材料を除去する 施工位置、形状、色相が設計図書と合致するか確認する 出来高検測を行う 幅、延長、間隔と材料の空袋、空缶の検測を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車が通行するため上流注意する 	<ul style="list-style-type: none"> 一般車との接触 材料容器等が風で飛散する 	4	2	6	III	・保安員の配置、上流確認
				2	3	5	III	・軽量物は飛散防止措置を取る

注意事項

- ・一般車最優先で必要に応じ交通監視員を配置
- ・無断で民地へ立ち寄らない